

村當局が統計事務の重要なるを意識し統計知識の向上發展及實地訓練等適切なる方法を講じつゝあるに因ること寔に多く、尙且本郡擔任係員の指導訓練の宜しきに依る賜と深く感じて居ります。

今後は一層奮勵、調査の正確、報告期限の嚴守に留意し御期待に反かざる覺悟であります。

重大なる責任と覺悟

新治郡九重 統計調査員 倉田 清之助

紀元節にあたり本縣統計協會總裁閣下より統計事務功績者として表彰せられ五月九日これが傳達式を土浦自治會館樓上に舉行し川崎課長殿より表彰狀並に記念品を拜受した事は身に餘る光榮であります、統計が各種の施設經營に重大なる關係を有することは今更喋々を要しませんが、淺學非才なる私如きが、今日の榮譽を擔ひましたことは

偏に郡係員及村主任の熱心なる指導訓練御後援の賜と感謝する次第であります、私共は爾今一層責任の重大なるを認識し統計事務の爲め全力を捧げ研究努力克く御訓諭の趣旨に従ひ村内調査員と圓滿提携、一致以て適確を期し榮えある恩賞の趣旨に背かざる様致したいと念じて止まざる次第であります。

舊記より

凡婦女分娩の際稀に雙子又は三子等を出産する者有之兄弟姉妹の順次取定め方從來民間に於て産婆の妄説に泥み前産を弟妹とし後産を兄姉と唱へ來候趣甚た顛倒無稽に属し不可然と存候右等區々相成候ては不都合不懌候今後は前産を兄姉とし後産を以て弟妹と順次相定め候方可然と存候此頃伺出候向も有之候間此段相伺候早々御指令被下度候也

明治七年十一月二日 内務省
【指令十二月十三日】 伺之通前産の兒を以て兄姉と定候儀と可相心得事

皆川 直 (石崎 徳廣)	全	五月卅一日 鹿島郡夏海村
山口 濱吉 (小野瀬小一郎)	全	六月一日 結城郡宗道村
岩本 武夫 (堀江與四郎)	全	五月十六日 久慈郡世矢村
田所 進 (村田 常介)	全	五月十五日 猿島郡森戸村
佐怒賀新右衛門 (田村 藤市朗)	全	五月三十日 結城郡豊田村
山口 喜一郎 (山口作一郎)	全	長瀬 卯一 (大林 周作)
萩原 耕一郎 (塚本 貞吉)	全	六月一日 多賀郡磯原町
長瀬 康 (長瀬 鶴吉)	全	四月一日 筑波郡小張村
大山 好雄 (坂本 秀逸)	全	塚本 辰之助 (寺羽根 辰一)
寺田 俊雄 (宮田 市太郎)	全	六月五日 新治郡斗利出村
藤井 正親 (御田寺 義信)	全	六月一日 結城郡西豊田村
仲内長左衛門 (仲内常右衛門)	全	

最右翼は久慈の百十八萬圓

木炭總産額二百五萬圓

柴草と卑下すな年産四十七萬圓

林産 610 萬圓

本年六月十日、縣統計課の調査發表にかゝる昭和九年に於ける本縣の林野産物總價額は六百十七萬六千六百五十五圓(四割二分四厘)林野産物二百八十三萬八千九百十九圓(四割六分五厘)石材、土石六十七萬四千五百二圓(一割一分一厘)である、之を郡別に觀るときは久慈郡の百十八萬二千八百九圓が第一位を占め、西茨城郡の七十五萬三千六百六十六圓、新治

郡の七十三萬四千七百十九圓、那珂郡の六十四萬一千三十二圓、東茨城郡の五十五萬四千九百四十三圓、多賀郡の五十四萬四千七百四十一圓がこれに次ぎ、其の他は四十萬圓を超えず眞壁、鹿島、筑波、稲敷、行方、猿島、結城、北相馬の順位となつてゐる。更に之を公私有林伐採、林野副産物、石材土石別に示して

公私有林伐採

森林伐採面積は四千九百二十四町八反伐採總價額は二百五十八萬六千六百五十五圓にして之を前年に比べると伐採面積に於て四十五町五反(〇割〇分一

厘)を減じたるも伐採總價額に於ては十九萬二千六十七圓(〇割八分)を増加した、伐採面積が減じたのに反し伐採總價額増加したのは材價の昂騰したからである。

林野副産物

林野の副産物總價額は二百八十三萬八千九百十九圓にして内木炭二百五萬九千二百五圓(七割二分五厘)柴草四十七萬一千五百二十四圓(一割六分六厘)樹實

及樹皮二十八萬四千五百圓(〇割九分九厘) 第一萬八千六百七十八圓(〇割七分七厘) 松茸及椎茸三千八百八圓(〇割一分一厘) 其他五千八百三十九圓(〇割二分二厘)で、之を前年に比べると總價額に於て二十九萬二千五百八十二圓(一割一分五厘)を増し内木炭は二十九萬八千四百十九圓(一割六分九厘) 松茸及椎茸は九百七圓(三割一分三厘) 筍は百三十八圓(〇割七分七厘)を孰れも増加したが、柴草に於て六千三百五

十六圓(〇割一分三厘) 樹實及樹皮に於て六十八圓(〇割二毛) 其他四百五十八圓(〇割七分三厘)を減じた。

石材土石

石材土石の總價額は六十七萬四千五百二圓で内花崗岩四十五萬八千二百四十五圓(六割七分九厘) 砂利十三萬三千六百三十七圓(一割九分八厘) 大理石三萬八千六百圓(〇割五分七厘) 粘土一萬七千五百一圓(〇割二分六厘) 其他二萬

六千五百十九圓(〇割四分)、前年に比し總價額に於て二萬五千八百四十三圓(〇割四分)を増加し内花崗岩五千七百五十一圓(〇割一分三厘) 砂利八千八百三十七圓(〇割七分一厘) 大理石四千九百圓(一割四分五厘) 粘土三千四百三圓(二割四分一厘) 其他二千九百五十二圓(一割二分五厘)の孰れも増加を示した。

關東區一府六縣 統計事務協會議

去る四月二十四日より内閣統計局に於て開催された地方統計課長會議を機會として關東一府六縣の統計課長會合の上、統計事務刷新向上を圖るため種々協議をなし、地理的事情を等しくせる參集府縣が相互提携して協調するの必要を痛感し、關東區府縣統計事務協會議を設立することに申合せその初回を栃木縣に於て開催することに決定した、其の申合に依る規約大綱は次の通である

一、目的 地理的事情を等しくせる府縣協調して統計事務刷新向上の範を示し、團結して統計施設改善充整の策を獻じ、併せて統計事務關係者相互の和親を圖らんとす

二、區域 關東地方各府縣(東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨、静岡)

三、名稱 關東區府縣統計事務協會議

四、會員 關東區府縣統計事務關係者

五、會合 毎年一回二日間とし會合地(府縣)の順位は協議又は抽籤に依り決定す、但し特別の事由あるときは會合度數の増加又は會合日數の伸縮をなすことを得

六、經費 開催地負擔

七、役員 當該年度會合地(府縣)の總務部長、又は統計課長を司會者に推戴し、統計課長又は統計主任を以て當番幹事とす

八、附記 本規約は昭和十年度より實施す



短歌

丹 四郎選

題 『青田』 『夏雜詠』

(賞)
見巡れる青田の溝のせせらぎのさやにきこえて夕ひそかなり
いさゝかの晝の休みに子らをゐて庭の實、梅を吾は落すなり
秀 逸 行方、武田 境 草 風
風呂出でて裸のままに水足らぬ門の青田の堰を見廻ら
除草器の手を休めつゝ東の間を憩ふ直ち青田涼風 勇
稲敷の利根の岸邊を行く／＼と青田はつきす大空のもと
行方、立花 今泉 安之助
豊なる年のしるしも見ゆるかなさとよりさととつづく青田に
病後の父の手を取りたくれの青田の風に吹かれ來にけり
見るかぎりうゑわたしたる千町田のなべて緑になりにかな

田草取り五人六人うち連れて戻るゆふべを水鶏啼くなり
あさまだき池のほとりにたゞつめば音おもしろく蓮の花咲く
川のべの芦の青葉に止り居る蜻蛉のかげの水に映つれる
夏作の調査に來ればわがノート汗のじみて字々へ分らず
朝露に濡るゝ研録をうち振るひ馬草刈るなり小唄まじりに
夕日照る青田の中を馬曳きて戻る人の鼻唄うたふ
田植時の忙しさもいまは過ぎにけり青田を渡る風眺めつゝ
梅雨つきて日癖の南風強ければ店硝子戸を鎖せる日のつつく
なり

行方、手賀 會根 健 而
多賀、南中郷 瀧 千 俣
多賀 綠川 荷舟
久慈、小里 沼田 松元
鹿島、沼前 川澄 春暢
稻敷、奥野 貝塚 苔人
北相馬、大野 海老原 松光

次回 課題『初秋雜詠』 十首以内
宛名 茨城縣廳内統計協會
締切 八月二十日